

2-3-3 中部ヨーロッパのデザイン

イギリス、フランスを中心として家具、装飾品は生活に密着した貴重品として扱われている。従って生活の道具としての考え方が定着し、古いものを極めて大切にする傾向である。又デザインセンターなどによる一般市民に対する啓蒙活動は活ばつに行われている。

2-3-4 南部ヨーロッパ

スペイン、イタリアのデザインは一口に言えば明快で良く国民性を表わしていると言えよう。しかし新進デザイナー達の考えている事は、空間とのつながりで日本建築の美、日本人の住まいなどが今後とり入れたい新しい方向であり、新しいデザインの発想であると信じているようであった。

3 成 果

この種のデザイン研究は短時日のうちにその成果が表われるというものではない。国際力をつけること即ちレベルアップは一つ一つの積み重ねで完成されるものである。この点ではヨーロッパのデザインは各国のもつ独特の文化を土台としてその上に咲いた見事な花であり、我国のもつ歴史的背景、日本文化、並びに生活様式も内容こそ異質なものであるが、決して劣っているものではない。今後これ等の特色あるデザイン開発こそわれわれに課せられた大きな課題であろう。

家具のデザイン改善研究（継続）

1 コーナー用可動式机収納書棚

鮫 島 正 登 美

(1) 目 的

現在住宅での生活実態として、個々のプライバシー意識が強く、個室化の傾向がある。この個室の環境整備と有効利用を目的とした設計研究は今までも行なってきたが、今年は、固定性ある書棚に、可動式の片袖机を取り付けた、コーナー用の物をデザイン試作した。

(2) デザインの目標

(2)-1 機能性と用途性

書棚の下部の側面一ヶ所を軸に横に可動させ、片袖机を書棚の下部にフォルディングインできることで室内を他の目的のために使用することができる。もちろん書棚の機能はそのままはたせる様デザインした。

また、片袖机、テーブルとして使用する時は、逆に逆にと転回すると、テーブルが出また片袖が出る様にしたものである。

(2)-2 構造と移輸送について

ごく一般的な二段重ねの書棚の下段に片袖机を収納するので、側板前面一ヶ所の上下にスラスト・ベ

アリングを使用し、ボルト・ナットで固定しただけで構造上の難点はない。また輸送上も書棚の上段と下段（下段の中に机は内蔵されている）の二箱の荷作りで簡易化できる。

(2)-3 装飾性と材料

縦におこす開戸型式のテーブルを供え付けるものは多いが、今回のものは横に展開することで袖付きの机とすることが出来、装飾の面から見ても完全な片袖机と書棚となり得る。また木材その物の持つ特性を生かすためシオジ材をフラットクリヤー仕上げとした。面縁も装飾効果を考慮した。

(3) 考察及び成果

県下の製造業者でも容易に製作出来、金具も市販の物を使用した。全国試験場作品展に出品したが、講評としては、こう言うシステムについて研究することは大いに賛成。今少しフォルディング・インした場合の隅の処置を研究するなら市場に出せる物となろう、との講評で、隅の空白部の処理、金具の頭の出等今後再検討の余地がある。

2 漂白楠材による民芸家具の設計研究

(1) 目的

楠材には、赤身、白木、と一本の材料の中にむらの多い材料なので、漂白することでそのむらをなくし、その後家具用材とするなら広い範囲のデザインが可能である。

県産材の高度利用の一環として、漂白楠材による民芸家具のデザイン研究試作を行った。

(2) 設計意図

日本の木造建築における特色は白木のひのき、すぎとタタミ、障子などの調和であると言われている。この空間とマッチした家具、即ち民芸調の家具として飾棚と手許タンスを設計した。

(3) 材料

県産材利用として、屋久杉、タブ、楠、椎、イス、栗、桜、材等があるが

(3)-1 屋久杉材のものはすでに実用化され、製品も軌道にのっている。

(3)-2 タブ、桜は民芸家具と言ってもそのほとんどが脚物であり箱物で漂白するほどの物ではなくそのままでの使用方法が多い。

(3)-3 イス材は堅く脱色の点良い材料の入手が困難、又栗材、椎材等後日変色などの欠点がありこの研究では楠材によって行なった。

(4) 考察及び成果

ジャパン・フアニチア・ショーに出品したが、飾棚及び手許タンス、両方とも工芸的で美術的である民芸家具との好評を得た。寸法の点、金具の点、今後まだ考慮の必要があると思われる。